

議会だより

3月定例会



第484回平成23年3月定例会は3月9日から3月18日まで

の会期で開会されました。平成22年度補正予算7件、平成23年度当初予算7件、条例の制定3件、条例の一部改正6件、指定管理者の指定1件、建設工事請負契約2件、専決処分1件、人事案2件、陳情1件が上程された。前年度比14・29%増の、新年度当初予算総額57億2、361万4千円の予算案など慎重審議の結果、いずれも原案通り可決、承認、同意し、10日間の会期を閉会した。

■補正予算

▼H22年度一般会計補正予算 7、021万9千円を追加し予算総額を43億3、726万1千円とする補正予算
▼H22年度国保事業勘定特別会計補正予算 1、829万3千円減額

▼H22年度国保診療施設勘定特別会計補正予算 29万7千円減額

▼H22年度国保歯科診療施設勘定特別会計補正予算 31万8千円減額

▼H22年度簡易水道特別会計補正予算 7万5千円追加

▼H22年度下水道特別会計補正予算 1千円減額

▼H22年度後期高齢者医療特別会計補正予算 156万1千円追加

■当初予算

▼H23年度海士町一般会計予算 歳入歳出予算の総額を42億9、276万3千円とする。

▼H23年度海士町国保事業勘定特別会計予算

歳入歳出の総額を4億1、205万9千円とする。

▼H23年度海士町国保診療施設勘定特別会計

歳入歳出の総額を4億3、921万2千円とする。

▼H23年度海士町国保歯科診療施設勘定特別会計 歳入歳出の総額を4、838万6千円とする。

▼H23年度海士町簡易水道特別会計予算 歳入歳出の総額を1億7、745万7千円とする。

▼H23年度海士町下水道特別会計予算 歳入歳出の総額を2億7、822万1千円とする。

▼H23年度海士町後期高齢者医療特別会計予算 歳入歳出の総額を7、551万6千円とする。

■条例の制定

▼海士町特別会計設置条例の制定 既存の特別会計設置条例の簡素化を行うため制定。

▼海士町過疎地域自立促進基金条例の制定 海士町過疎地域自立促進計画に搭載された事業を実施するため制定。

▼海士町地域情報基盤施設の設置及び管理に関する条例の制定

あま光ネットの業務を適正に運営するため制定。

■条例の改正

▼海士町行財政改善審議会条例の一部を改正する条例 町政施策の円滑な実施に資するよう条例の一部を改正する条例

▼海士町総合振興計画策定審議会設置条例の一部を改正する条例

審議会の庶務（事務局）を変更するための条例の一部を改定する条例

▼海士町誌編さん委員会設置条例の一部を改正する条例 「海士町誌」から「海士町史」への改正及び、海士町史編さん委員会の設置条件を改正する条例

▼CAS施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例 CAS施設の管理を現状の指定管理者制度にあわせて見直しを行う。

▼海士の御塩司処の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例

海士の御塩司処の管理を現行の海士の御塩司処の管理を現

状の指定管理者制度にあわせて見直しを行う。

▼海士町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例 豊田地区に町営住宅を建設することに伴い、団地の名称改正等の所要の改正を行う。

▼伝染病患者及び保菌者の薬価徴収に関する条例等を廃止する条例

▼根拠となつている法律の改正や、実情の変化等により必要性がなくなつたため以下の条例を廃止する

・伝染病患者及び保菌者の薬価徴収に関する条例

・海士町農業大学校生奨学金貸与条例

・海士町農業及び漁業協同組合学校生奨学金貸与条例

・海士町消防委員会条例

■指定管理者

海士町公の施設の指定管理者の指定手続等に関する条例に基づき公共施設に係る指定管理者の指定を行う。

・総合交流施設

海士町漁業協同組合

組合長 亀谷 潔

■変更契約

▼海士港先灘地区港湾環境整備工事

▼菱浦漁港マイナス3m岸壁改良工事

契約金額変更に伴う変更契約

■先決処分

▼地域情報通信基盤推進交付金事業に増額変更する

松江市東朝日町102

株式会社 NTT西日本

中国 島根事業部

7億6、440万円を

7億8、940万円に変更

一般競争入札による契約

■人事案件

・海士町教育委員会委員

佃 稔 さん

任期満了に伴う再任

阿部裕志 さん

任期満了による新任

・海士町監査委員

中本勝利 さん

任期満了による新任

■陳情

隠岐どうぜん農業協同組合

代表理事組合長堀川栄市氏

TPP交渉参加反対に関する

陳情は趣旨採択

5月臨時会

〔人事〕

新正副議長決まる

議長 柏原廣行氏

副議長 寺下雅人氏



去る4月24日の海士町議会議員選挙後、初議会となる5月2日第485回海士町議会臨時会において、正副議長を選出しました。

指名推薦の結果、新議長に柏原廣行氏、副議長には、寺下雅人氏が選任されました。町政伸展のために更なる奮闘を期待いたします。

※なお常任委員会及び各委員会等の詳細については次号で掲載いたします。



新体制で町民福祉の向上と議会活性化に向けて頑張りますと握手を交わす、新議長の柏原氏(右)と副議長の寺下氏(左)

3月定例会

町政に問う

一般質問



上田正子 議員

岩がき殻・さざえ殻の活用を積極的

問 上田議員

岩がきの養殖がスタートして10年が経過し、『春香』のブランド名で順調に販売額を伸ばし、明るい将来展望のもと、23万個の生産を50万個の生産に拡大する計画をもって、Iターン者を含め多くの漁業者が岩がき養殖に取り組んでいる。岩がきは、生がきでの出荷とCASによるむき身と半むき身の形での出荷がなされており、年間約5トンものかき殻が排出され、これがゴミとして焼却されている。

一方、さざえ殻は平成10年度に農産物加工場に追加導入されたさざえカレー作り施設の稼働によって、その後3万

食程度の出荷がなされている。さざえカレーの加工によってさざえ殻は年間1トン余りが排出され、加工場周辺3カ所に野積みされている。岩がき殻、さざえ殻ともに産業廃棄物であるが、石灰分が主成分で肥料活用が出来れば資源活用が図られると思うが町長の所見を伺う。

答 町長

さざえ殻、岩がき殻の処理対策の必要性は十分承知している。農協や他の関係組織と連携を図りながら、専門家の知恵を借りて新たな施策を講じなければならぬと思っております。貝殻魚礁は浄化作用のあることは確認されているので、今後諏訪湾で行う岩がきの後での稚貝養殖、なまこの養殖場、アマモ群落の造成普及のためにも提言のあったことについてはこれから具体的に取組んでいきたい。

町民農園の開設は

問 上田議員

中山間僻地、離島等では農業就業者の高齢化や離農によって農地の荒廃化が顕著に

見られる。町内でも道路に面した平坦地で耕作に好条件の場所にあっても利用されない農地がたくさんある。近年町内にIターン者が増えており、家庭園芸に興味を持っている人も少なくないよう思う。耕作放棄地を借り上げ、区画農園を設けて、希望者に貸し出し、野菜作りや花づくり、作物栽培を推進し、その活動を通して住民の交流促進や食育の推進、食料の自給率向上に繋げてはどうかと思うが町長の所見はどうか。

答 町長

農業就業者が少なくなり高齢化が進み農業の衰退傾向が強まっている。かつては各家庭に「しゃん山」があつて野菜は殆ど自給されていたが、現在しゃん山への依存度は低くなっている。農地の貸し出しについては希望があれば町で今までも仲介をしている。需要があれば区画農園のお世話をするので、今すぐに農地の借り上げ、貸し出し制度に取り組むことにはならないと思う。ただ、耕作放棄地対策協議会を立ち上げてはとの話が

出ているので、農業委員会で耕作放棄地の対策も含めて農地問題を考えてもらいたいと思っている。



波多紀昭 議員

海士町再生のための人材育成は

問 波多議員

今後の地域社会の中で、人材を持続的に育成する力を強化することが課題だ。就中^{なかずく}行政がいかに地域における人材育成の支援体制を強化していくか、或いは取り組み度合いの強弱がこれからの地域間競争の中で、地域力の差となつて現れることは必定だ。

今春から島前高校の新たなカリキュラム編成の中で「地域創造コース」がスタートする開設趣旨は、地域の未来を創造する起業家的人材を育てるコースと聞く。確かに、「自分の地域に必要な人材は、自ら育成する」という人材育成戦略は地域の自立に向けたアグレッシブな挑戦だと理解

し、その成果を地域発展に繋げるといふ一歩踏み込んだ事業展開には諸手を挙げて賛成したい。しかし、いくら思いや形だけが踊つても、カリキュラムを具体的に、かつ主体的に担うスタッフの顔が具体的なイメージとして伝わってこない。新事業内容の策定や指導人材の確保など教育支援施策は万全かどうかを伺う。

答 町 長

議員から島前高校の取り組みの成果について披露があつたように、着実に軌道に乗っていることも事実だし、昨日現在で国立大6名の合格者が確定、6大学にも入った。高校入試についても久方ぶりに定員オーバーだった。来年は60数名の生徒が島前全体にいるから今年よりも厳しくなるだろう。定員を超える可能性もあるので更なる学力向上が求められることも事実だ。

島前高校の魅力アップの中で「地域創造コース」の中味について、カリキュラムやスタッフは万全かどうかの問いだが、まだ万全とは言い切れない段階だ。地元講師の掘り

起こしもこれからだ。従来から、Uターン政策を進める中で「安定した仕事がない」「働く場所がない」という理由で「帰れない」と言われてきた。公共事業も3分の1になつた。だからこそ今の海士町では、行政が仕事を創るのでなく、「地域創造コース」と出たからには自分たちで仕事を創りに帰ってもらいたい。そういう万感の思いの中の開設

内航船いそかぜIIの菱浦港乗り場整備はいつ！



花岡美近 議員

問 花岡議員

平成15年から再三再四に巨り質問してきたが、未だに解決の兆しがない。平成17年6月に中国海運局から改善命令が発令された。あれから6年が経過したが、信憑性や誠意が疑われる。整備が不可能ならば、全てフェリーにする等、菱浦港の安全対策について所見を伺う。

答 町 長

県に対する陳情の件だが、土木部長以下、島前土木事務所等に陳情している。菱浦漁港整備事業において、計画変更を要望したが、充足率の問題等でできないとのこと、事業完了後に県と十分協議

し、新たな整備計画で実施できるよう要望していく。また、浮き桟橋の件だが、内航船の発着場所の一元化という問題もあり、マリナーホテル

側に設置すると港湾内が狭溢となり安全運航に支障を来す恐れがあり困難である。全てフェリーにする提案については、3島間の運航所要時間の問題もあり今のところ難しい。バリアフリー化については、新船建造時の乗降時のバリアフリー化を実現するよう検討したい。

境港発フェリーしらしまを菱浦港に寄港させては？

問 花岡議員

現在、菱浦港に寄港せず別府港からいそかぜIIに乗り換えるため不便な上、冬期の干潮の時期は船と岸壁の段差が80cmも発生し、逆に夏期の満潮時には船が60cmも高く大変危険である。危険回避や利用者の利便性を考慮し、菱浦港への寄港を切望する。町民のための補助金を増額してでも菱浦港に寄港させる考えはないか伺う。

答 町 長

隠岐汽船の航路について非常に苦慮しているところであり、足の引つ張り合いというか、金で解決することにはならない状況にある。隠岐は4

つの島であり、島前それぞれの島に着くことが理想的だと思ふ。最終的な解決は綱引きを繰り広げても解決できない。結論的にいうならば、新しい航路を拓くくらいの気持ちを持って進まなくては解決に繋がらないと思つている。今は綱引きせざるを得ない状況である。

隠岐島前高校魅力化プロジェクトについて

問 花岡議員

今年度から「特別進学コース」と「地域創造コース」が開始されるが、2クラス化と勘違いをしている生徒や保護者が少なくない。早急に周知徹底を図るよう要求する。2クラス化や教員定数の2名増を目指すとしているがその根拠を伺う。

答 町長

2つのコースについて、中学校には数回説明している。「2コース化」と「2クラス化」は意味が違うことを保護者と中学生にも説明したいと思つている。2クラス化とその維持について、最低42名の

生徒の確保が必要だ。仮に平成30年度に島前管内の高校受験生が40名だった場合、その7割が島前高校に来るとすると28名となり、島外から14名の生徒の確保が必要である。因みに今年度の島外から

の志願者数は14名であり、2クラス化は夢ではない。全学年2クラスになれば教職員が約10名増え教育力も向上するため、今後も魅力化の取り組みを継続すれば、2クラス維持は可能だと考えている。

隠岐広域連合議会報告

波多 紀昭
寺下 雅人

平成23年第1回臨時会が開催された。選任同意案件が2件、条例改正案が3件、指定管理者の指定が2件、補正予算が2件の計9案件について審議された。同案件は西ノ島町の任期満了に伴い、新たに町長となった升谷 健氏を副広域連合長に選任する同意案件及び識見監査委員の辞任に伴い、新たに監査委員の選任同意を求めるものであり、いずれも全会一致で承認された。

■条例関係

仁万の里が4月1日から障害者自立支援法に基づく新体系に移行するため基金条例中の会計名等を改めるもの。

医学生生の修学資金の返還免除に関し、臨床研修期間を修学期間とみなし、修学基金の

返還猶予期間の始期を臨床研修終了時とするもの及び職員の給与を1〜7%減額するもの。公の施設の指定管理者の指定については、フェリーおき、レインボープラザの両件についてそれぞれ隠岐汽船(株)、(株)あいらんどにいずれも全会一致で議決された。

■予算関係

一般会計及び特別会計の補正予算案は隠岐病院の新築整備事業基金(寄付金)への減額補正、レインボープラザの

客室改修工事が宿泊客の予約状況から工期延期になり翌年度に繰り越すもの。介護事業特別会計では、不要額による組み替え補正をおこなうものについていずれも議決された。

■報告事項

東日本大震災について、消防援助隊島根県隊に出動指示があり、当消防本部から5名の派遣を行った。また、島前島後間の連絡船については、23年度は別府く奥津戸間を2往復4便で運航することとなった。

諸般の報告

3月

隠岐島前高校卒業式

海士町農業委員会

全員協議会

映画撮影スタッフ慰労会

時局報告会

第44海士町議会定例会

海士中学校卒業式

福井小学校卒業式

海士小学校卒業式

例月現金出納検査

島前町村組合議会臨時会

島前高校魅力化の会

けいしよ保育園卒園式

海士町体育クラブ結成式

隠岐広域連合議会臨時会

島前森林復興公社総会

4月

広報調査特別委員会

隠岐島前高校入学式

福井小学校入学式

海士中学校入学式

海士小学校入学式

隠岐神社春季大祭

あま光ネット竣工式

例月現金出納検査

保く高連携教育推進協議会総会

【編集後記】

■地震、津波、原発事故というトリプルショックが日本を直撃した。あれから1ヶ月。東日本大震災は、復旧が成り立たないほど根こそぎの打撃を受けたところも少なくない。しかも福島原発事故はいまだ収束の目処が立たない。かつて経験したことのない複合危機は現在進行形だ。国際的な支援も受け入れ、事態悪化を早期に食い止めたいものだ。

■統一地方選後半戦に挑む町議会選挙を控えている。向こう4年間の町政を託す選挙だ。自治体の政治制度は、直接公選の首長と議会から成る二元代表制を基本とし、両者の抑制と均衡でその意志を決めることになっている。とは言え、両者の権限関係は「強い首長・弱い議会」だ。地方議会の存在の薄さが批判の対象にならぬよう、分権の受け皿に相応しい責任と自覚が改めて求められる。自らの役割を再認識し、地方政治を担ってもらうための今回の選挙である。

(4月14日 波多紀昭記)